

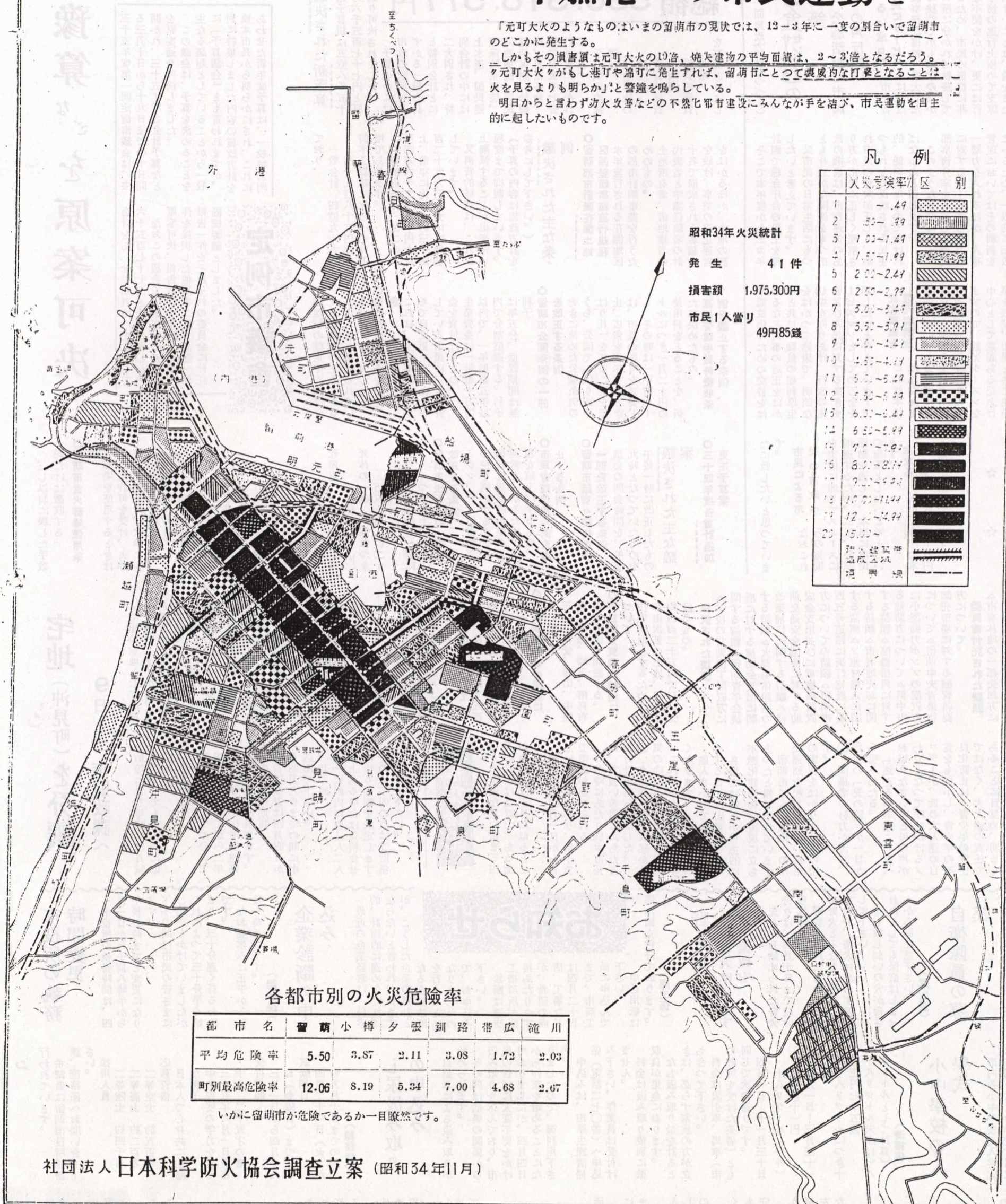
# 留萌市現状火災危険率図

## 不燃化への市民運動を

「元町大火のようなものはいまの留萌市の現状では、12-3年に一度の割合で留萌市のどこかに発生する。

しかもその損害額は元町大火の10倍、焼失建物の平均面積は、2-3倍となるだろう。元町大火がもし港町や浦町に発生すれば、留萌市にとって壊滅的な打撃となることは火を見るよりも明らか」と警鐘を鳴らしている。

明日からと言わず防火改善などの不燃化都市建設にみんなが手を結び、市民運動を自主的に起したいものです。



昭和34年火災統計

発生 41件

損害額 1,975,300円

市民1人當り 49円85銭

凡 例

火災危険率%	区 別
1	0.49
2	0.50-0.99
3	1.00-1.49
4	1.50-1.99
5	2.00-2.49
6	2.50-2.99
7	3.00-3.49
8	3.50-3.99
9	4.00-4.49
10	4.50-4.99
11	5.00-5.49
12	5.50-5.99
13	6.00-6.49
14	6.50-6.99
15	7.00-7.49
16	7.50-7.99
17	8.00-8.49
18	8.50-8.99
19	9.00-9.49
20	9.50-10.00
	防火建築等造成区域
	境界線

各都市別の火災危険率

都市名	留 萌	小 樽	夕 張	釧 路	帯 広	滝 川
平均危険率	5.50	3.87	2.11	3.08	1.72	2.03
町別最高危険率	12.06	8.19	5.34	7.00	4.68	2.67

いかに留萌市が危険であるか一目瞭然です。

社団法人日本科学防火協会調査立案 (昭和34年11月)